

拠点運営での取組報告

【イベントレポート】

よりなん

6/17 市民活動サポート研修
7/15 ～はじめてまして！ボランティア～

- 総来場者数 40名
- 市民活動団体が抱えるヒト・モノ・カネの課題のうちのヒトに着目。ボランティアの考え方や具体的なマネジメント方法に関する知識を提供したことで、支援者や参加者を増やす取組を考える機会となり、課題解決の一助となりました。
- ボランティアの受け皿づくり
 - ①ボランティアの意義や種類、参加方法、活動の進め方などの解説や事例紹介者から提供された実践的な知識や経験談は、参加者のボランティア活動への参加意欲向上につながりました。
 - ②ボランティア募集依頼書の書き方や効果的な募集活動のポイントについて学ぶことで、実践的な知識とスキルを強化しました。



【市民活動相談事例】8月、9月

悠紀の里

- 市外観光協会さんより
家康関連のバスツアーを企画中。時間がとれれば悠紀の里にもよりたい。
- 15分～45分の短時間なコースで、サポーター会がガイドすることも可能なことをお伝えしました。

むらさきかん

8/26 活躍人！交流会
～SDGs事例発表～

- 協働先：NPO法人こえもじ、宮崎まちづくり協議会、ひきこもりを考える会ゲートキーパー「おじぎ草」
- 総来場者数 31名
- 岡崎市で活躍する市民活動団体やNPO法人、地域活動団体に横のつながりによって可能になったことなどを発表していただくことで、連携の重要性を参加者の方に伝えることができました。また、交流会では普段の活動内容をSDGsのゴールに当てはめながら自己紹介からスタートし、その後団体が抱える課題や解決策を話し合いました。
- 「SDGsに関連することを意識して行いたい」「普段行っている業務もSDGsに貢献できる、つなげられるかもしれない」という意見が聞かれるなど、SDGsに対する意識が高まったことが伺えました。また、交流会を通じて、多様な団体と関わりが持てたことは、センターとしても今後の協働への足掛かりとなりました。



やはぎかん

- 防災マップを新調するために相談をしたい。
- 他学区の防災マップと一緒に見て特徴を紹介し、住民に有益となる情報をアドバイスしました。また、参考になる配架資料を提供しました。

まち育て推進チーム Pick UP！



QURUWAシンポジウム2023 | わたしが描く「ひがおかの未来」

東岡崎駅第2期整備をきっかけとしたまちの変化に注目し、これからのひがおかの在り方考えるシンポジウムをりたが企画・運営で開催しました。地元事業者・行政職員による視察レポートの発表やQURUWAアドバイザーである藤村龍至さんがコーディネーターとなり実施されたパネルディスカッションなど、約150名の参加者は熱心に耳を傾けていました。また、NPO法人こえもじ、りぶらっこファミリーとも協働し、多くの方々に参加いただくことができました。

お問合せ		よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム	23-2888

まちのミカタ

Litaracy

2023.11 vol.124

発行・編集



特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・りた

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888 / FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター /
FMおかざき / 杉くんの駄菓子屋 / 松應寺 / cafeくらがり

まちのミカタ

Litaracy

ーりたらしいー

124

2023年11月



特集

体験とあそび、自ら考え挑戦する 子どものまち「なごみん横丁」

毎年夏休み、小学生を対象に北部地域交流センター・なごみんで開催している「なごみん横丁」。これは、大人に指示・干渉されず、自分の頭で考え自由に意思決定ができる特別な環境下で、“まち”をつくっていく体験をすることで、夢見る力や創造する力、協働する力を養うことを目的としたイベントです。普段の生活では、決められたことに従い、違う年代の子と接することが少ない子どもたちにとって、なごみん横丁は大変貴重な

機会、小さな成功体験を積み重ねて成長していく姿を垣間見ることができます。

同事業は、今年で第15回を迎えました。3日間延べ620人の子どもが集まり、延べ140人のボランティアが活動を支える一大イベント。企業との協働も始め進化を続けています。今号は、子どもたちの中で恒例行事になっている同事業のこれまでとこれから、そして「なぜりたがやるのか？」を解説します。

体験とあそび、自ら考え挑戦する 子どものまち「なごみん横丁」

●なごみん横丁とは？

なごみん横丁は、子どもたちが市民(以下、丁民)となり、子どもたちだけで運営するミニチュア版の“まち”です。仕事をして、給料をもらい、税金を納めて、稼いだお金(じゃん)で買い物します。お店を出店するのも子どもたちです。ものすごく売れるお店もあれば、全く売れないお店もあります。売れなかった店主はなぜ売れなかったのか考え改善していくのです。また、選挙を実施し、議員や丁長も選出されます。これらの営みを通して、まちの様々な仕組みを理解することができます。まちを自分たちでよりよくしていくといった取組を創造できることに価値があります。

●なごみん横丁のこれまでとこれから

2007年に、りたと近隣住民による「なごみん横丁実行委員会」を組織し、北部地域交流センター・なごみんのホールを会場にスタートしました。その後、第3回からは会場を全館に広げ、年々参加者が増えていき、活気にあふれる場となりました。第13回までは当日申込ということもあり、1日450人以上集まるように。多くの子ども達が楽しんでくれるのはよいことでしたが、スタッフもてんやわんやで一人一人顔をしっかり見てじっくり話せないことに課題を感じ、「そろそろ人数制限が必要かも…」と考えていました。

決断するきっかけとなったのは、新型コロナでした。2年連続の非開催。このままやめるのもありなのではという魔のささやきも聞こえました。しかし、夏が近づくにつれて「今年は横丁ありますか？」という多数の問い合わせがありました。楽しみにしている子どもたちがいることを実感し、人数制限を設けて2022年に再開。思い切って200人限定にしたことで一人一人と向き合うゆとりができました。

子どもが主役のイベントですが、安全に活動できるように学生を中心とした多くのボランティアや市民活動団体、企業などが協力してくれていることも、なごみん横丁の特徴の一つです。ボランティアアンケートでは、「大人が入らず子ども同士で成り立っていることに驚いた」「子どもたちが自主的に動いていて驚いた」「貴重な経験で刺激になった」といった感想をいただくなど、関わる大人にとっても新鮮な学びにつながっています。



▲絶賛、お仕事探し中・・・
懸命に仕事探しをする子ども達の姿は、現実のハローワークそのもの？！



▲納税はしっかりと。
給与は30分で50じゃん。税金として、2割となる10じゃんを納めます。税金は、丁長・議員の給与などまちのために使われます。



▲一日の終わりに必ずフィードバック
各日程で、スタッフ全員で振り返りを実施。次の日以降の運営に生かします。

りたがなぜ、こどものまちを？

こどものまちの目的は、「子どもの創造性や自発性を高める」ためと言えます。そのような目的の事業をなぜ、りたが力を入れて行っているのか…。それは、当たり前のようにまちに関心を持てる次世代を育てるためです。

昨今の地域活動の課題はもっぱら担い手不足と言えます。人口減少、定年延長、女性活躍などに加え、考え方の多様化で、まちのことまで構ってられないという人が多いのは間違いないでしょう。これ自体は否定できない事実です。しかし、次世代にはもっとポジティブに、「あなたの存在・行動の一つ一つがまちの要素になっている」という感覚を持ってもらいたいと考え、なごみん横丁に関わっています。

個性や多様性を活かして横丁のまちを運営する経験をした子どもたちが、大人になり当たり前のように地域活動に参加し、さらには地域活動の推進役になってほしいと願い、今後も続けていきたいと思っています。



▲丁長・議員選挙の様子
立候補者の公約を聞いてシピアに投票する丁民の姿が印象的。

まちの今を切り取る！

まちづくりトピックス

—town planning topics—

ICTの力を自団体の力に

皆さん、最近岡崎市内の地域交流センターで、交流スペース内での公衆無線LAN利用が可能になったことを知っていますか？市民活動団体の方をはじめとした地域交流センター利用者の皆さんの利便性を高めるサービスとして、今年度から運用を開始していますので、ぜひご活用ください。

これは小さな一例に過ぎませんが、これからの市民活動・地縁団体の活動にICT※1の力を取り入れていく流れはますます加速していくことになるでしょう。導入することで、地域の課題解決や魅力発信・活性化、組織運営の改善に大きな力になります。

具体的には、チャットアプリ等のコミュニケーションツールでの団体内の「情報共有・意見交換の促進・強化」、ウェブサイトやSNS、動画を活用した「情報発信・交流の充実化」、オンラインでのセミナーや相談対応といった「オンライン活動の展開」、クラウドファンディング等の「資金調達の多角化」といったものが考えられます。

コロナ禍を経て、市民活動の分野ではこうした動きが広まりました。今後は特に、地縁団体での導入が進むことが期待されており、岡崎市でも今年の7月からアプリを使った町内会活動のデジタル化支援のモデル事業が始まっています。

りたとしてもここ数年で、内部でチャットベースでのコミュニケーションツールを導入したり、定例会議のリモート化をしたりしています。また、講座としては「情報発信セルフチェックで自分たちに合った広報ツールを探す」、「オンラインミーティング体験」、「クラウドファンディング超入門」「無料オンラインツールの活用」といった内容の研修をこれまで実施してきました。

今年度もIT活用研修が1月・2月にむらさきかんで開催されます。ご興味ある方はぜひご参加ください。

※1「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。



◀使用方法等も館内に提示。

りた's Eye

団体へのICT導入については、導入に熱心になり過ぎて、団体メンバーが、リアルに一緒にいる時間やアナログな手法でこれまで培ってきた大事なものを棄損しないようにする配慮、苦手な人への配慮も必要です。

ただピンチはチャンス。これを機会に、その「大事なもの」ってなんだろう、とメンバーで考え、自分たちのスピードで一歩先に進んでみてはいかがでしょう？

りた職員の思いを伝える！

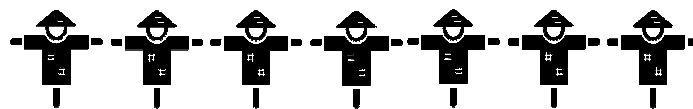
コラム ~lita column~

田んぼ、楽しい。下山、楽しい。



今年度、下山で実施されている「となりの田んぼ」という稲作体験プログラム。私も、ボランティアとして、子どもと一緒に参加しています。春のもみまきから始まり、田植え、かかし作り、そして先日、稲刈りをしました。子ども達の感想は、「とにかく、楽しい。」下山に行くまでの道がくねくねして、木のトンネルみたいで、楽しい。おたまじゃくしやカエル、たがめ、とんぼにバッタ。田んぼで、たくさんの生き物を見つけて追いかけて、ときには捕まえて、観察するのが、楽しい。「いち、に！」とみんなで声を揃えながら、一斉に田植えをしていくのが、楽しい。自分達で植えた稲で、田んぼ一面が黄色く染まっていて、楽しい。それを鎌を使って、ザクザクと刈り取って、自分達で収穫できるのが楽しい。農作業のあとに、泥を流しに行くと思えかけて、川で遊ぶのが楽しい。

地域の良さを伝えるのに言葉は必要ないんだなと実感したプログラムでした。残るは収穫祭。子ども達もそして、私も。とっても楽しみです。



岩川厚子(3年目りた職員)

やはぎかん、市民活動センターに勤務後、今年度からは事務局にて広報を中心に担当。私生活では、2児の母として、仕事と育児に奮闘中。